

# 平成 30 年度 第 1 回郡山市中小企業及び小規模企業振興会議 会議内容（要旨）

日時：平成 30 年 7 月 20 日(金) 13:30～15:45

場所：郡山市役所西庁舎 5 階 5-1-2 会議室

## 【出席者】

委員：初澤会長、高橋副会長、飯田委員、金内委員、菊地委員、相模委員  
長尾委員、久井委員、松枝委員、水野谷委員、山田（慶）委員、  
山田（剛）委員、渡部委員、渡辺委員（欠席：胡摩ヶ野委員）

事務局等：藤橋産業観光部長、村田産業観光部次長、鈴木産業政策課長、  
佐久間産業創出課長、二瓶雇用政策課長、穴戸産業政策課長補佐、  
齋藤産業政策課産業政策係長、鈴木産業政策課産業振興係長、  
猪股産業創出課産業創出係長、渋谷産業政策課産業政策係主任

## 【傍聴者】なし

### 1 開会（司会：穴戸課長補佐）

- ・司会から委員の解嘱及び補欠委員の委嘱について報告。

本年 4 月 26 日、退任届け提出により以下の 2 名解嘱

柳沼正晃委員及び菅原康則委員

本年 5 月 18 日付けで以下の 2 名を委嘱

山田剛委員及び渡部修委員

- ・新委員 2 名から挨拶。

### 2 会長挨拶

新たに 2 名の委員の方をお迎えした。

本日の会議では、昨年度の議論の結果である中小企業持続化プロジェクトと、今年度、市が策定を予定する「(仮称) 郡山市産業振興ビジョン」について議論をいただく。皆様の忌憚の無いご意見をいただきたい。

### 3 議事

会長が議長となり議事運営。

#### (1) 委員の解嘱及び補欠委員の委嘱に伴う副会長の選任について

- ・事務局から会議規則第2条に基づき副会長の選任について説明。
- ・会長から各委員に選任方法について諮ったところ、菊地委員から「事務局案はどうか」との意見があり、各委員からも事務局案の提示に「異議なし」。
- ・事務局から案として副会長に高橋委員を提示し、各委員「異議なし」とのことに  
より、高橋委員が副会長に決定。
- ・高橋副会長から挨拶。

## (2) こおりやま中小企業持続化プロジェクトについて

事務局から資料1により説明。

(久井委員)

- ・(市内中学校におけるキャリア教育(職業講話)の実例について紹介。)

(松枝委員)

- ・中小企業持続化プロジェクトの期間は何年間と考えているのか。

(齋藤係長)

- ・自治体の予算は単年度主義なので、現時点では何年間かは申し上げられないが、  
今後、振興会議での議論などを受け、検討したい。

(初澤会長)

- ・人材確保支援事業と事業承継支援事業は、県の補助事業を活用しているが、何年  
間該当するのか。

(齋藤係長)

- ・3年間であるが、事業内容がステップアップする必要がある。

(松枝委員)

- ・資料1には「景気拡大基調に伴う人手不足が顕著」と書いてあるが、日銀福島支  
店「福島県金融経済概況」によれば、「県内景気は、回復に向けた動きが足踏み状  
態にある」と記載されており、相反していないか。

(鈴木課長)

- ・資料1は、昨年度、プロジェクト事業を検討するうえでの資料である。なお、事業承継セミナーなどは、各団体でも実施しているため、今後の状況を見ながら、委員の皆様のご意見もいただき、来年度の事業を検討したい。

(水野谷委員)

- ・今後は、プロジェクト事業の目的や目標をより明確にし、計画の具体化を進めていくべきである。例えば、キャリア教育や人材確保事業では参加人数を目標値とするほか、参加者にアンケートを取ることも考えられる。
- ・事業承継支援の個別相談会ではどの程度支援するのか。郡山市の経営者の高齢化と事業承継の問題は深刻な重要課題であるが、市は、経営に関する相談を支援機関につなぐなど、本プロジェクト事業で、事業者の課題に対応できるのか。

(齋藤係長)

- ・アウトプットとしては、各セミナーでは1回当たりの参加者を40名程度と見込んでいる。キャリア教育支援事業では、市内の全中学校が利用してくれることを目標としている。アウトカムとしては、中学生や保護者に市内の優良企業を分かっていたりなど、長い目で見て、地元就職する若者が増えることや、事業承継が進むことである。
- ・事業承継セミナーの個別相談会は「入口」となる相談会であり、事業引継ぎ支援センターなどへつなぐことなどと考えている。

(山田慶委員)

- ・キャリア教育支援事業は、事務局説明のとおり長い目で見るべき。優秀な若者を採用するには、先端的な企業や東京の大企業と勝負しなければならない。企業の紹介だけでなく、若者の興味を引くように職場の環境、ワークライフバランス等、田舎暮らしの良さなど広い視野でアピールできる標準的なものを定めて、講演内容に入れたらどうか。

(菊地委員)

- ・現在、私のところへの税の相談でも事業承継の案件が増えている。事業承継事業に「気づき」とあるが、具体的な内容はどのようなものか。セミナーの参加予定数は、どの程度想定しているのか。セミナー後の相談会では、マッチングや具体的な支援策、指導をするのか。それとも、支援機関へのつなぎ的なものか。

(齋藤係長)

- ・セミナーの内容としては、事業承継を効果的に進めるためのテクニックや具体的

な事例などで、1回当たり40名を予定している。経営者と後継者をマッチングする本市事業はないが、事業引継ぎ支援センターなどに繋いでいきたい。

- ・(資料4-2 事業者アンケートのうち事業承継について説明)

(山田慶委員)

- ・事業承継について、後継者不足が企業の規模ごとにどういう傾向になっているかのデータはあるのか。

(齋藤係長)

- ・そこまでの調査、分析はしていない。

(長尾委員)

- ・政策金融公庫では、創業支援・事業承継に力を入れている。中小企業等経営者の5割以上は跡継ぎがいなく辞めるとのアンケート調査もある。内訳として、元々やめる予定が4割、後継者難が3割弱、事業に将来性が無いが続く。今後は、事業継承を希望するが後継者がいない3割の事業者に対してきめ細かく支援するべきでは。残りの7割のうち事業を継承させるべきと考えられる企業を残す仕組みを考えるべき。並行して創業支援も続けていく必要がある。現在、創業で多いのは飲食業と建設業で過当競争となっているが、事業承継と創業支援はセットで考えるべきである。

(初澤会長)

- ・企業の仕分けをするとすると、行政としては手が出しづらいので、各セクターは何をすべきか。

(長尾委員)

- ・商工会議所で実施したアンケートを活用すると良いが、仕分けの仕組みは難しい。民間と行政がチームになって、企業におせっかいを焼く、川崎モデルの事例もある。

(初澤会長)

- ・事業承継は行政だけでも民間だけでもうまくいかない。この振興会議において、各セクターが連携していくべき。

(金内委員)

- ・キャリア教育や人材確保について。これらの事業は長期的な視点で考えざるを得

ないが、現在、首都圏に出た学生が就職で戻ってくる割合が少ない。東京での福島県人の集まりで聞いたが、都会から福島に戻ってきたいと思っている若者に対し情報源が少ない。結果的に首都圏で就職する。U I J ターン施策として、「ふるさと回帰フェア」や、国際フォーラムでのUターンフェアを毎年開催しているが、県内の市町村でも出展している自治体もある。30代、40代の参加者が多い。県中地域出身で首都圏において就職している方は多いので、郡山市でも参加の検討をしてはどうか。

(初澤会長)

- ・時間の都合上、議事(2)はここまでとし、次に移らせていただく。

### (3) (仮称) 郡山市産業振興ビジョン策定について

事務局から資料2～6により説明。

(初澤会長)

- ・事務局に確認するが、今年度、郡山市が商業振興計画と工業振興計画を統合して策定する産業振興ビジョンに対し、振興会議の委員の皆様から意見を頂戴し、その意見に基づき、郡山市においてビジョン案を策定する。本日はそのための会議ということによいか。

(鈴木課長)

- ・振興会議のほか、産業アドバイザーなど各種会議から意見をいただき、ビジョンの素案を策定することを予定している。

(初澤会長)

- ・産業振興ビジョン策定に関し、産業界の課題解決などについて、委員お一人ずつ意見をお願いしたい。

(水野谷委員)

- ・既存の商業振興計画、工業振興計画ともに、現状と課題の評価・分析をきちんと行っていただきたい。また、工業振興計画において、ものづくりの人材確保、働く人の職場の環境整備が生産性の向上、質の向上、人材確保・人材育成の視点からも重要であると考えます。
- ・課題解決のための4つの視点としては、具体的な企業の課題を抽出するなど、現

状をよく把握して中長期的なビジョンを考えるべき。

- ・事業者アンケートの中でICTの利活用についての項目があるが、会計ソフトなど単にパソコンを使用しているだけではなく、クラウドの利用など質の高いICTの活用をもっと進めるべき。

(久井委員)

- ・郡山市全体の産業のビジョンを策定することは良いことだが、ビジョン策定は手段であり、我々振興会議としては、中小企業が継続できるよう、ビジョンを中小企業の振興に落とし込んでいくことが最終目標である。

(飯田委員)

- ・資料2のビジョン策定の視点として「イノベーションを担う人材育成」が上がっているが、私は現在、福島イノベーション・コースト構想推進機構で人材育成を行っており、いろいろな企業とお会いしている中で、企業と学校をマッチングするコーディネーターが配置されているとキャリア支援などもうまく進むと感じている。

(金内委員)

- ・課題解決のための4つの視点について。郡山市内で技術の高い、優れた企業を市内に紹介するだけでなく、市の外部に発信することをサポートする事業があればよいのでは。その企業の魅力発信により、市外からの後継者が見つかるなど人材不足等の問題解決にもつながるのではと考える。

(菊地委員)

- ・郡山市は新産業都市の指定から発展した。このような全国でも先駆けになることができないか。
- ・重点分野「稼ぐ力」の向上、生産性の向上や魅力ある企業づくりが今後重要である。また、企業の魅力づくりのためのおせっかい役が必要では。それが郡山の発展に繋がると考えている。

(相模委員)

- ・郡山市は、観光や6次化推進に力を入れているが、6次化商品として完成したものが少ないなど、まだまだ足りない部分が多いと思う。
- ・振興会議では、人材確保や事業承継など事業の具体的な掘り下げが必要であり、ここに重点を置くべきと考える。
- ・建設中のスマートインターチェンジ周辺を観光拠点として位置づけるなど、観光

に力を入れていただきたい。

(高橋委員)

- ・ 昨年から、委員同士のキャッチボールが出来ていない。この会議を、委員同士の意見交換の場になるようにしてほしい。限られた時間しかないので深掘りできるような会議にしてほしい。
- ・ 資料 4-1 市民へのアンケート調査については、ターゲットが誰であるのか、クロス集計をするなど様々な観点で分析できる視点があるといいのでは。
- ・ 小規模企業振興基本法に基づき国が策定した小規模企業振興基本計画にある成長発展のみならず、事業の持続的な発展という理念に照らした場合、4つの視点ですくいとれないものが出てくる可能性がある。
- ・ 当会事業等の説明資料を予め準備し配布したが、今回は、時間不足により説明することができない。

(長尾委員)

- ・ サブタイトル「産業界の課題解決先進都市」は良いネーミングだと思う。
- ・ 広域圏について。郡山市は人口に比して車が多く、マチも本宮から白河までつながっている。広域連携についても、東北自動車でつながり、マチもつながっている白河市まで入れてはどうか。

(齋藤係長)

- ・ 連携中枢都市圏は通勤通学割合なども関係しており、白河市は該当していない。

(松枝委員)

- ・ 人口ビジョンの推計をきちんと行い、まちづくりに反映するべき。
- ・ アンケート調査の対象について、最大のＩターン者は結婚により郡山に来る奥様方であり、客観的に評価できる。また、震災による避難者の方も対象にするなどいろんな階層を対象とするべき。
- ・ アンケート調査のデータについて、各人がさらに調べたいときのためにオープンデータ化できれば便利である。
- ・ 13市町村の被災者への配慮も十分に検討してほしい。
- ・ 郡山市と須賀川市の一人当たりGDPがかなり落ち込んでいるが、原因はJ Tの撤退によるものである。今後、落ちこんだ販売額の対応を検討すべきではないか。
- ・ もう少し議論を出来る時間が欲しい。分科会など別な方法も考えるべきでは。
- ・ 女性の活躍や外国人雇用など具体的な議論ができるようにしてほしい。

(山田慶委員)

- ・例えば、人口問題でいくと、人・リソースの取り合いである。我々中小企業者は、人材確保に一苦労しているが、得意分野で特色を出すべき。説明資料では、どの自治体でも書くような総花的なことが書いてあるが、アンケート結果を分析して、他の自治体と競争するとき、郡山は何が特徴なのか、他の自治体との違いを強調すべき。それをビジョンとして表現すべきである。

(山田剛委員)

- ・今回のビジョン策定は、商業振興計画、工業振興計画を統合した総合的な指針として初めて策定するものであり、地域の産業振興のため、商業・工業のそれぞれの役割を書くことが出来る産業振興ビジョンに期待している。
- ・商業、工業に限らず本市の事業者も、市外に外貨を稼ぎに行く事業者と、地域で経済を循環させ地域を守る事業者の役割があり、商業と工業を一体に考えるからこそ、この役割を考えることが出来る。商業、工業を一体的に検討することが重要である。

(渡部委員)

- ・工業振興計画の評価に、ハイテクプラザの記載がないが、当所は研究だけでなく、県内企業に対して、技術相談をはじめ不良品解析や依頼試験も行っており、工業振興に貢献しているため、名称を盛り込んで欲しい。
- ・課題解決のための4つの視点が既存企業の「生産性」だけに言及しているが、今は大量生産だけでなく、製品提供の速さ、多品種少量生産など生産の対付加価値をどうつけるか、多様な視点が重要である。
- ・「新産業創出」について、例えば、再エネ・医療・ロボットと言っても、特別な技術だけで成り立っている訳ではなく、色々な技術や分野が関わっている総合的なもの。部品・材料・ソフトなど、関わってくるところは必ずあり、それを見つけていく努力、アンテナの高さが必要である。既存企業も十分に関われる。

(渡辺委員)

- ・郡山市と連携して、現在、こおりやま広域圏において「スモールスタート支援事業」に取り組んでいる。本市や須賀川市等で説明会を実施し、延べ60名の参加である。説明会に参加する人は、既に創業等をしている人が多い。この事業の特長は「川崎モデル」に近く、おせっかいを焼く、伴走チームで対応するもの。参加者は、我々の持っているネットワークを足がかりにしたいと期待している。特に近隣自治体の方々が、郡山市のネットワークに期待していることを感じている。この事業により創業などがされれば、郡山の産業振興につながると考えている。

(初澤会長)

- ・時間の都合で、委員の皆さんの発言時間が限られた。2時間で2つの議題は難しい。昨年度も会議が長引き、都合により退席される委員もいた。次回以降の会議時間の割振りを、事務局で検討願いたい。
- ・産業ビジョンについては、商業分野・工業分野で共通する課題も多くある一方、商業、工業それぞれ検討すべき事項がある。共通したプラットフォームを構築し、商業・工業の共通した部分をそこで解決すべきで、商業・工業それぞれで解決すべき事項はそれぞれの解決策を示すとする全体構成にすべきと考える。
- ・時間となったので、産業振興ビジョンに対する意見はここまでとしたい。

【意見交換終了】

#### (4) その他

(水野谷委員)

- ・この会議は中小企業等の振興のための会議だが、今年度は産業振興ビジョン策定のための検討を行う会議として開催されるのか、今年度の今後の会議検討計画をお知らせ願いたい。

(鈴木課長)

- ・今回は、事務局の意図を、委員の皆様とうまくお伝えできず申し訳なかった。今回、振興会議で産業振興ビジョン策定について議題としたのは、委員の皆様が、本市産業界の現場において活躍されている方々であり、その知見や経験から、事業者が抱える課題やその解決策などについてご意見を伺うためである。この会議はビジョンの策定委員会ではなく、いただいた意見から、各産業界が出来ること、行政が出来ることを整理して、市がビジョンとしてまとめるものである。
- ・今後の会議予定は、あと3回を予定しており、第2回は8月31日(金)で、本日の意見を元にビジョンの骨子を作成し、中小企業持続化プロジェクトもその中に位置付け、委員の皆様からさらにご意見をいただきたい。第2回会議の前に、事業者が抱える課題などについて、追加のご意見があれば、メール等でいただきたい。第3回は11月頃に、ビジョン案を確認いただくとともに、市の予算編成の時期の前に、中小企業持続化プロジェクトなど具体的な振興策について、議論いただきたい。第4回は、年度末に、市の予算が固まってから、市の事業と、委員の皆様の次年度の取組みなどについて会議を開きたいと事務局で考えているが、

今後の会議については、会長と日程調整するとともに、振興会議の中で議論いただきたい。

(初澤会長)

- ・確認だが、次回以降も、産業振興ビジョンと中小企業持続化プロジェクトの2つは、議題となるのか。

(鈴木課長)

- ・産業振興ビジョンについては、この振興会議やその他の会議、団体からのご意見を踏まえ、今後、骨子を作成するので、骨子について、振興会議の委員の皆様から再度ご意見をいただきたい。
- ・中小企業持続化プロジェクトについては、昨年度から引き続き検討いただいている内容なので、今後も深めていただければと考えている。

(初澤会長)

- ・次回もタイトな時間設定になると思うが、事務局で検討をお願いしたい。

(水野谷委員)

- ・(「福島県よろず支援拠点」、「事業引継ぎ支援センター」等の事業概要、中小企業庁「事業承継ガイドライン」について紹介。)

(齋藤係長)

- ・日程の再確認として、第2回は8月31日(金)午後2時から、市役所西庁舎5階会議室で開催予定。会議時間については、会長と相談させていただく。第3回以降は課長が説明したとおり。

4 閉会 (15:45)

以上